

研究主題 「『児童自らが評価する方法・内容』と

『教師のフィードバック』を生かした社会科の授業デザインの開発」

東京都教職員研修センター企画部企画課

中野区立江古田小学校 主任教諭 笠原 駿

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）（以下、「学習指導要領」と表記。）において、社会科の目標に示されている「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」は、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度などであると示されている。これらを養うためには、毎時間の問いを精選し明確にする必要があると考える。また、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成 31 年 3 月 文部科学省）では、「主体的に学習に取り組む態度」について、「自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価すること」と示されている。このことを見取り、評価していくためには、児童の自己評価・相互評価や教師のフィードバックの仕方を工夫していく必要がある。

「PISA2015 年協同問題解決能力調査—国際結果の概要—」（平成 29 年 11 月 国立教育政策研究所）において、児童は、友達との協力や決定に対して肯定的に考えている一方、「『共同作業だと、自分の力を発揮できない』と考えている割合も多いことがわかる。」と示されている。このことから、社会の変化や課題に向き合い、その解決や社会の発展を目指すためには、自ら問いを見だし考える力と協働的によりよい社会を築いていこうとする態度が重要である。

以上のことから、本研究では次の 2 点をねらいとする。第一は児童自身が自分の学習の状況を自覚しながら次の学習に向かうことができるようになること、第二は問いをもちながら児童自らが主体的に学習に取り組み、学習の成果を基に生活の在り方やこれからの社会の発展について考えることができるようにすることである。そのために、本研究では自己調整学習に着目した。そこで、小学校社会科における「自己調整的な学習」の展開を考え、自己評価の観点を明確にした自己調整カードを開発し、研究主題にせまる手だてとした。

第2 研究仮説

学習評価の工夫と問いを明確にした授業デザインを基に指導の工夫をすれば、児童は、自らの成長を自覚しながら主体的に学習に取り組む態度が養われ、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとするであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年 1 月 文部科学省）を基に、学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性とその背景の分析を行った。また、学習指導要領における「主体的に学習に取り組む態度」の意義を分析するとともに、自己調整する力、自己調整学習に関する文献研究を行った。

2 調査研究

社会科の学習の主体的に学習に取り組む態度の評価に関する内容について、都内公立小学校 17 校の児童 649 名、教師 143 名を対象に質問紙による実態調査を行った。（表 1）

児童対象の社会科の学習での振り返りに関する調査からは、学習の最後に振り返りを書いたり（77.9%）、振り返りを書くことで考えを整理できたりした（75.8%）という経験がある児童が多いのに対して、その振り返りを次の学習に生かすことは少ないこと（46.8%）が分かる。また、教員対象の社会科の学習指導における児童の振り返りの指導に関する調査からは、振り返りには意味があると理解されている（94.4%）一方、時間の確保やフィードバックの方法に課題があると感じていること（64.7%）が分かる。これらのことから、次の学習に生きる振り返りの方法や内容と協働的な学習の取り組み方を工夫すること、振り返りの時間の確保と適切なフィードバックの仕方を精査することが有効な指導法の要素になると考えた。

表1 社会科の学習について

| 【社会科の学習での振り返りについて（児童）】 | |
|----------------------------------|-------|
| 学習の最後に振り返りを書いている | 77.9% |
| 振り返りを書くことで自分の学んだことや考えを整理できたことがある | 75.8% |
| 授業が始まる前や授業の始めに振り返りを見直す | 46.8% |
| 【社会科の学習指導における児童の振り返りの指導について（教員）】 | |
| 振り返りには意味があると思う | 94.4% |
| 振り返りを返却する際に、次の学習へ向けての改善点を示している | 64.7% |

児童対象の社会科の学習指導における児童の振り返りの指導に関する調査からは、振り返りには意味があると理解されている（94.4%）一方、時間の確保やフィードバックの方法に課題があると感じていること（64.7%）が分かる。これらのことから、次の学習に生きる振り返りの方法や内容と協働的な学習の取り組み方を工夫すること、振り返りの時間の確保と適切なフィードバックの仕方を精査することが有効な指導法の要素になると考えた。

3 開発研究

「自己調整的な学習」を進めるために、TFIK 図や自己調整カードなどの開発を行い、検証授業にて有効性を検証した。

(1) 検証授業の概要（令和元年 10 月）

都内公立小学校第6学年を対象として、社会科「町人の文化と新しい学問」（全9時間）の検証授業を実施した。

(2) TFIK 図の開発と活用について

問い（T）とフィードバック（F）を明確にして位置付けた（I）小単元の構成図（K）（以下「TFIK 図」と表記。）を開発した（図1）。

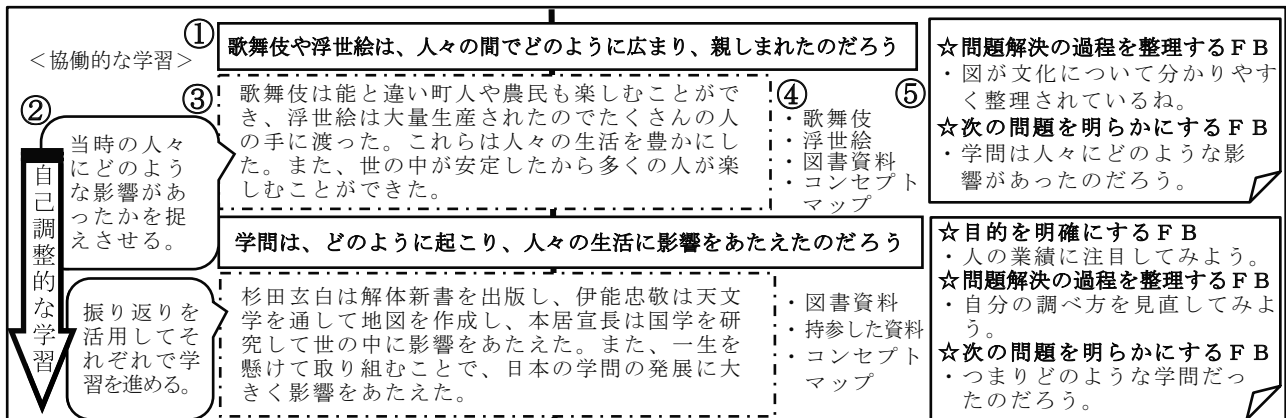


図1 TFIK 図

この「TFIK 図」を活用することで、小単元の流れを確認しながら児童の振り返りに対応したコメントによるフィードバックを行うことができるようにした。この「TFIK 図」では、各時間の主な問い(①)を設定し、その時間の留意点(②)、予想される児童の反応(③)、資料(④)を位置付け、最後に主なフィードバック (FB) (⑤)を示した。これらを1単位時間ごとに位置付けている。授業における主な問いを設定することで、児童は自分の学習状況を把握しやすくなる。また、留意点や反応、資料を示すことで、教員は、小単元の見通しをもちながら指導を進めることができる。これらを活用し、児童の振り返りへのコメントを通してフィードバックを行う。実際には、事前に設定したフィードバックを基に児童の振り返りに対応したフィード

バックを行う。これらを繰り返すことで、児童の主体的に学習に取り組む態度が養われると考えた。

(3) フィードバックの精選

本研究では、フィードバックを「振り返りに対するコメント」とした。目的を明確にする、問題解決の過程を整理する、次の問題を明らかにするフィードバックの3種類に分類した。児童の振り返りに応じてコメントすることや児童に対する授業中の支援を行うことで、児童の学習改善につながるようにした。

(4) 自分の学習状況を把握するための自己調整カードの開発と活用について

児童が自らの学習を振り返り、表出した自己評価を生かしながら教師がフィードバックを行うために、自己調整カード(図2)を開発し、活用した。このカードは、学習問題や学習計画、自己評価など自らの学習状況を一覧にして、児童が見通しをもって取り組めるように工夫した。また、児童が自らの学習状況を把握し見通しがもてるように「自己省察ができる問い」を9点設定して振り返りを行うことで、次時の学習に現在の学習状況を生かせるようにした。実際の授業においては、「自己省察ができる問い」を毎回全て振り返るのではなく、その時間に育てる資質・能力に応じて教師が設定するようにした。

| | |
|-----------|--------------------|
| 学習問題 | |
| 問い(課題) | |
| 具体的に調べること | |
| 今日やること | |
| ① | 何が分かったのか |
| ② | どうして分かったのか |
| ③ | 何が分からなかったのか |
| ④ | それをどうすればいいのか |
| ⑤ | 何を考えたのか |
| ⑥ | どう感じたのか |
| ⑦ | どうしたかったのか |
| ⑧ | 今日学んだことにどんな意味があるのか |
| ⑨ | ゴールに向かって自分はどうあるべきか |
| 友達から | |
| 先生から | |

図2 自己調整カード

(5) 指導の工夫について

ア 自己調整的な学習を進め、主体的に学習に取り組む態度を養うための指導過程の工夫

第一に1単位時間のイメージ図(図3)の開発である。これは、自己調整学習を小学校社会科の問題解決的な学習と合わせた「自己調整的な学習」をまとめたイメージである。第二によりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする社会的態度を育むための学習活動の設定である。実際の検証授業においては、現代の文化遺産について調べる学習を行い、伝統や文化とどのように関わっていくかを考える話し合い活動を設定した。その際、自己調整的な学習を展開して現代における取組の事実を認識させてから話し合うことで、前述した社会的な態度の育成につながると考えた。

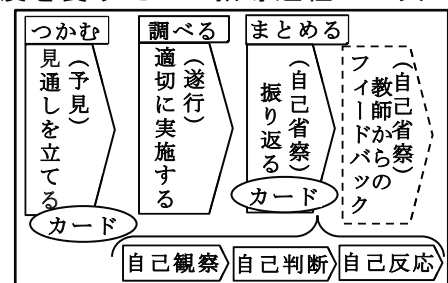


図3 1単位時間のイメージ図

イ 検証授業における学習活動の工夫

第一は思考ツールの「コンセプトマップ」(図4)を活用した調べ活動である。共通のツールを活用することで、互いの学習状況の確認や、話し合い活動をスムーズに行えると考えた。第二は異なる人物の選択である。「調べる」学習段階では、江戸幕府が政治を行った頃の国学や蘭学に関わる3人の人物から1人を選択し、人物の業績を調べさせた。その後の学習活動では、調べたことをグループで

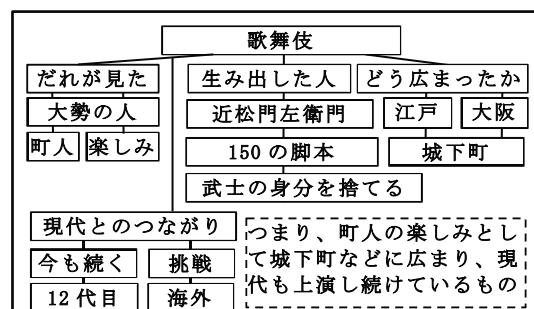


図4 コンセプトマップ

調べたことをグループで

関連付けさせた。このことによって、業績や学問を発展させたいという願いや共通点に気付かせられると考えた。

(6) 検証授業後の分析

ア 児童の振り返りの記述内容より

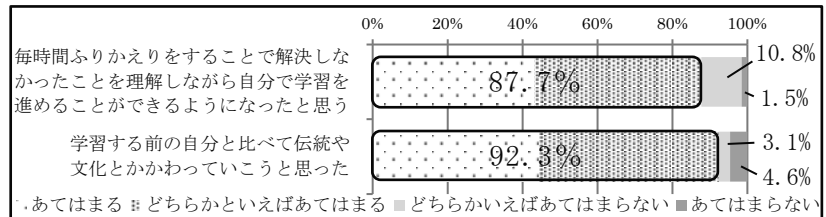
「自己調整カード」を活用した振り返りを1枚のシートにまとめ、分析を行った。自分の学習状況を把握しながら次の学びに生かす姿を見取ることができた。また、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする姿も見取ることができた(表2)。

表2 抽出児童の振り返りの記述内容(下線は、笠原加筆)

| 自分の学習状況を把握しながら次の学びに生かす姿 (○数字は自己調整カードの問い、㊦は教師のフィードバック) | | | | よりよい社会を考え、学習したことを 社会生活に生かそうとする姿 | |
|--|---|--|---|---|--|
| 第2時 文化調べ | 第3時 学問調べ(1) | 第4時 学問調べ(2) | 第5時 学問調べ(3) | 第6時 まとめる | 第9時 自分との関わり方 |
| ⑦次からは、うつつだけでなく、思ったことも書く | ①全国の測量をし、日本地図を作る ②前の振り返りでうつつではなく、と書いたから ⑥マップに自分の気持ちを入れられた | ①忠敬は、幕府に命じられて17年の年月をかけ、全国を測量する ②図書館で借りた資料を持ってきた | ⑧業績や思いを理解しようとする ⑨今とのつながりを理解し、まとめ、振り返りをして、3人が居なかったらなど考え、疑問などをもつ | 江戸時代の文化と学問は今につながっているものがたくさんあると思った。そのつながっている文化と学問を発展させた人に感謝をしながらこれからも歴史を学ぼうと思った。 | 自分たちが「今」でできることは、文化や伝統を身近なものにするのだと思う。今まで続けている大切なものだなと思っただけで、未来に残すために自分は何ができてきたか考え続けたい。また、みんなと話し合ったらたくさん意見が出て、みんなの考えをこれまでよりも感じられた。 |
| ㊦人を中心に調べてみましょう | ㊦成しとげたことを中心に調べましょう | ㊦今とのつながりはどう考えますか | ㊦自分ほどのように関わっていきましょう | | |

イ 小単元前後の意識調査の結果より(都内公立小学校第6学年66人対象)

単元前後に実施した意識調査の結果を比較した。社会科の学習における振り返りについては、「書くことで整理ができる」「授業前に見直す」「友達からのアドバイスで考えが深まる、変わる」「先生からのフィードバックで見通しがもてる」の全てに対して肯定的回答が増加した。社会科の学習についても、「自分に合った学習の進め方で取り組む」「みんなで取り組んだ方がよい」「みんなで取り組むとき、自分の良さを発揮している」の全てに対して肯定的回答が増加した。また、研究仮説に関わる「解決しなかったことを理解しながら自分で学習を進める」と「伝統や文化とかがかわっていかうと思った」という設問に対しても約9割の児童が肯定的に回答した(図5)。



第4 研究の成果

図5 社会科の学習での振り返りについて

第一は、「自己調整カード」を活用することで、児童自身がどうしたいのか考えながら振り返ることができ、次時の見通しをもつことができたので、自己調整的に学習を進める上で有効であった。第二は、「TFIK 図」を作成することで、指導者は見通しをもちながらフィードバックを行うことができた。以上の2点から、本研究における開発研究は児童が成長を自覚し、よりよい社会を考え、社会生活に生かそうとするために有効であったと考える。

第5 今後の課題

自己調整的な学習を進めるための振り返りの時間と問題解決的な学習活動との時間的なバランスを取ること。また、児童が学習状況を自覚するための自分を振り返る問いやフィードバックの内容を精選すること。